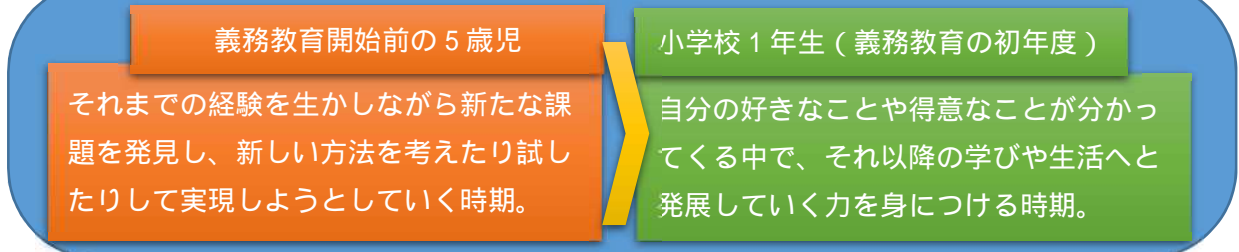


「(仮称)ねりま幼保小の架け橋期プログラム」素案(案)について(「ねりま接続期プログラム」の改定)

「(仮称)ねりま幼保小の架け橋期プログラム」作成にあたっての考え方

架け橋期(義務教育開始前の5歳児から小学校1年生の2年間)



- ・「(仮称)ねりま架け橋期プログラム」は子どもの成長を切れ目なく支える観点から、特に架け橋期に焦点を絞り、学びの連続性に配慮しつつ、指導内容や方法を工夫するための考え方や事例を紹介し、より一層幼保小が連携・協働して、円滑な接続をするための手引き書とする。
- ・「(仮称)ねりま架け橋期プログラム」は、各施設で使いやすいよう汎用性を持ったものとする。また、幼稚園・保育所・小学校の関係者がお互いの教育・保育の考え方や内容について一層の理解を深め、連携・協働して、架け橋期のカリキュラム作成することに重点を置く。

掲載内容と作業部会での検討内容

第1章 子どもたちの育ちと学びをつなぐため

- ・幼保小連携・接続の重要性や取組を進めるための必要な視点を盛り込んだ。
- ・区の架け橋期カリキュラムの考え方を提示した。

第2章 架け橋期の子どもの姿と指導のポイント

- ・架け橋期(5歳児～小学校1年生)を見開き1頁に掲載し、比較や見通し、振り返りしやすいレイアウトにした。
- ・架け橋期の子どもの姿を「育成を目指す資質・能力」ごとに記載した。
- ・5歳児は、5領域を表示し、小学校1年生は、それぞれの時期の生活面、学習面について記載した。
- ・「多様な育ちへの配慮」の項目を新たに設けた。

第3章 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から見る実践例

- ・架け橋期のそれぞれの時期の実践例を掲載した。
- ・各実践例の内容は、各施設の教員・保育士が子どもの理解や指導の参考にできるように記載内容を工夫した。

【参考】

「ねりま接続期プログラム」(平成30年6月発行)

- ・幼児教育・保育、小学校教育に携わる職員が、乳幼児期・接続期の子どもを理解を深め、継続的な支援・指導を行い、円滑な接続を目指すことができるよう作成。
- ・接続期を5歳児の10月から小学校1年生の5月上旬までとし、接続期における教育・保育活動を充実させるためには、子どもの姿を0歳児から見通すことが重要としている。

調査員連絡会、作業部会
素案案検討作成経過(令和4～5年)

【調査員連絡会 全4回】
R4年 8/1、11/8、12/1
R5年 11/21

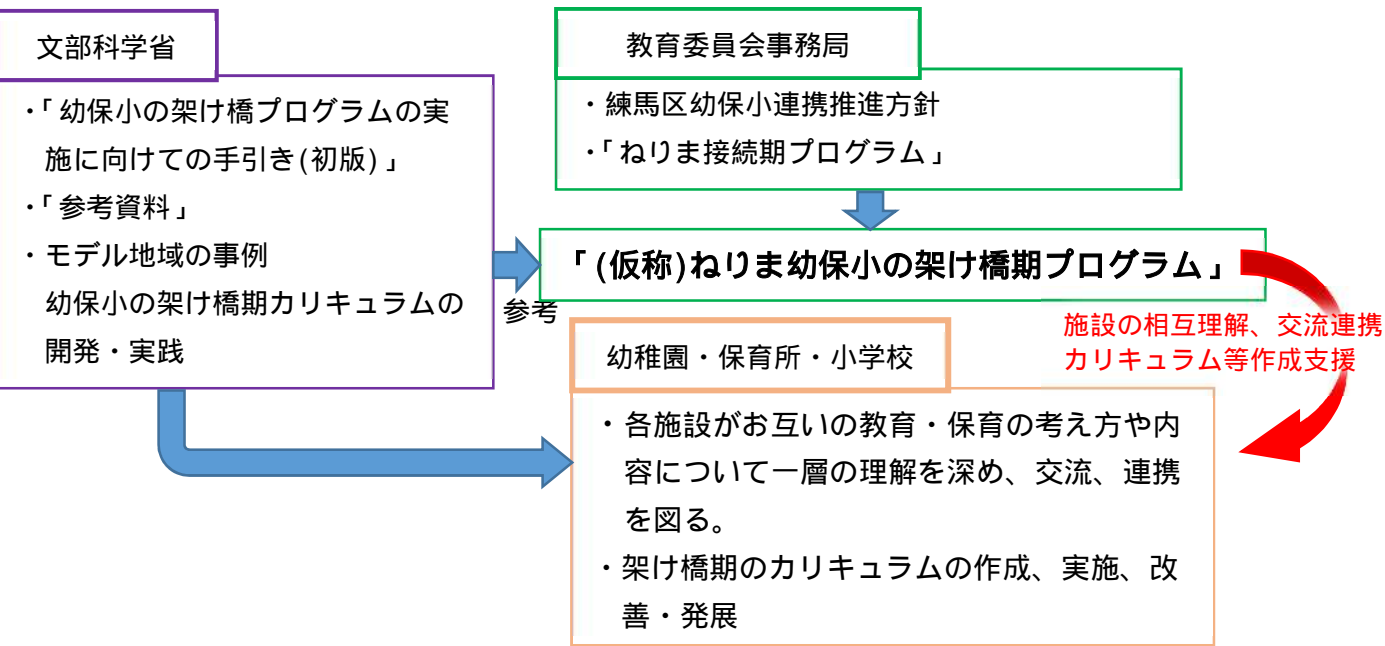
【作業部会 全5回】
R5年 2/7、5/9、6/30、8/2、9/19

令和5年5月に開催した作業部会以降、アドバイザーとして、國學院大學准教授吉永安里先生を招き、ご助言をいただいた。

今後のスケジュール

- 令和6年2月 文教児童青少年委員会に報告
- 令和6年3月 作成、配布(配布対象:区立小学校、区内幼稚園、区内保育所)
区ホームページに掲載
令和6年度管理職、担任向け研修にて周知、活用

「(仮称)ねりま幼保小の架け橋期プログラム」の活用



「架け橋期のカリキュラム」の考え方
関係者の連携・協働のもと、共通の視点(「育成を目指す(育みたい)資質・能力」,「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」)をもって、5歳児の年間指導計画と小学校1年生の年間指導計画を一体として、一貫性のある「架け橋期のカリキュラム」とする。

子どもの発達段階や学びの連続性について共通の理解

架け橋期のカリキュラム

